

#### 「第4回現在の国際情勢を考える会」同好会発表

新春の1月14日、日進市北部福祉会館2階、自習室にて、日本工営海外事業本部上下水道部所属に在籍している渡邊泰介氏が「業務体験に基づき、(ベトナム・ミャンマー・インド・ザンビア)の現地状況について」の体験発表を1時間程に渡って、同好会の参加者30名程の聴衆者の前で発表した。渡邊氏は日頃、上下水道分野の建設コンサルタントとして活動しており、10か国の途上国に携ってきたとのことである。今回は、主にタイトルに掲げた4か国について、水道のインフラ整備がどの程度行き届いているか、また、その現状と課題について述べた。

ベトナム：日本の平均年齢は約46歳であるが、それに比べてベトナムは約29才であり、ドイモイ政策による急速な成長により経済の発展は著しいが、人口増加に対応した水需要の確保が出来ていない。早急に水道整備が必要であるとの報告であった。

ミャンマー：アジア最後の「ブルーオーシャン」人口5000万人強であり、消費市場としては魅力ある国になってきた。現在では、大規模工業団地開発などに対応した安定した水供給が最も必要になっている国である。

インド：人口は中国に引き続く世界第2位の12億人という巨大市場であり、7%の経済成長率を維持している。しかし、下水道整備率が0%の地域も存在しているのが現状である。

ザンビア（アフリカ南部）：旧イギリス植民地。銅の大鉱山が存在し、アフリカで最も平和な国とされている。中国への銅の輸出は多大である。水道の設置は緊張の課題である。上記に述べたことがコンサルタントとして世界中を駆け巡っている渡邊泰介氏の現状報告であった。

この度の講演は、新年を皮切りにフレッシュな若者達の体験発表を聞くことができ、当協会のこれからの活動に有意義な一年のスタートとなった。